

【様式】

|        |  |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 進んで学び 高め合う 北小の子  |
| 目指す学校像 | 伝統と創造・新たな時代の創り手となる若い力を育てる学校 ~ Well-being 一人ひとりが幸せになる~  |
| 重点目標   | 1 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業の改善(学びの質の向上)<br>2 夢に向かって努力する豊かな心と健やかな体の育成(発達や心のサポートの推進)<br>3 協働・連携による潤いのあるコミュニティ・スクールの発展(家庭・地域とともにある学校づくり)<br>4 安心・安全を守る学校管理の徹底(教育環境の整備と充実)<br>5 新たな教職員の学びの姿や働き方マネジメントの具現化(教職員のキャリア形成の構築) |

|     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
|     | B | 概ね達成 (6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し (4割以上) |
|     | D | 不十分 (4割未満)   |

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 |   |                                 |  |  |   |     | 学校運営協議会による評価   |   |
|-------------|---|---------------------------------|--|--|---|-----|--|---|
| 年 度 目 標     |   |                                 | 年 度 評 価  |  |   |     | 実施日 令和8年2月19日  |   |
| 番号          | 現状と課題   | 評価項目                            | 具体的方策  | 方策の評価指標  | 評価項目の達成状況   | 達成度 | 次年度への課題と改善策  | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等   |
| 1           | <現状><br>○ICTの機器の活用度は高まった。効果的に活用ができたという教職員も昨年度 76.9%となり、様々なアプリを授業で活用できるようになってきている。<br>○全国及び市の学習状況調査の結果から、全体的に学力は高いと言える。また、「話し合い活動が好き」と答えた児童が昨年度 84.5%に達した。<br><課題><br>○クラウドの活用頻度を高め、クラウドを活用した効果的な授業展開の工夫を研究する。<br>○個別最適な学びと協働的な学びを関連付けた授業展開を研究し、実践的な取組を行う。 | ・SSSPの効果的な活用と新しい教育アプリの活用による授業改善 | ①校内でSSSPに関わる研修を充実させる。また、ICT機器の活用をした授業改善を図る。<br>②クラウド環境を有効活用した教育活動の実践に取り組む。                                     | ①校内でSSSPを活用できているか。また、新しいアプリケーションを活用した授業実践を行っているか。<br>②授業の中で、児童がクラウド環境を活用した活動の実践を行ったか。            | ① 教職員の ICT 活用、各種アプリ活用による授業実践の肯定的評価も <b>78%</b> となり、昨年度より <b>2分上がった</b> 。<br>② クラウド環境を活用した授業を展開し、児童が使いこなす場面が多く見られた。                | B   | <課題>SSSPの運用が更に定着する必要がある。<br><改善策>SSSPシステムが有効に働くルーティンづくりが必要である。                       | GIGAスクール構想で学校教育が一気に前進したが、子どもたちを取り巻く環境の変化も大きく変わった。教育機器を活用した授業の充実、今まさに最重要課題の一つといえる。本校の教職員は研修の成果であるようで、しっかり取り組んでいる。また、話し合い活動にも取り組んでおり、生き生きとした児童の姿が見られる。  |
|             |   | ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な創出          | ①個別最適な学びと協働的な学びを関連付けた授業の手立てを工夫し実践する。<br>②授業及び学校行事における協働的な活動と振り返りの時間を充実させる。話し合い活動の工夫により学び合いの力を向上させる。            | ①「学校は、分かりやすい授業を行い、個に応じた学習指導の充実を努めている」の肯定的な評価が85%以上になったか。<br>②「話し合い学習が楽しい」と回答する児童が80%以上を維持できているか。 | ① 授業への児童の肯定的な回答は <b>84%</b> とほぼ指標を達成した。教職員の概ね満足度の肯定的評価も <b>8割</b> に到達した。授業においては話し合いを取り入れた結果、学習が楽しいと回答した児童の肯定的評価が <b>85%</b> に達した。 | A   | <課題>個別最適な学びと協働的な学びを関連付けた授業を研究する。<br><改善策>学校課題研修で掘んだ成果を児童が主体的かつ協働的に取り組む授業を全教職員が実践する。  |   |
| 2           | <現状><br>○学校自己評価に係るアンケートで「より良い世の中を作っていきたい」と回答する児童が91.8%になり、発達段階に応じた心を潤す行事や取組の成果が上がった。<br>○児童理解に関する研修、個別のケースカンファレンス、SC、SSW等との連携による相談等により、教育相談体制が強化した。<br><課題><br>○全体的には自己肯定感はまだ低めであり、個々の児童がもっと自信をもってよい行動に移すことができるよう、ニーズに応じた環境づくりの工夫がさらに必要である。               | ・特別活動の充実と児童自ら取り組む場の設定           | ①児童が立案実行可能な企画を設定し、児童に達成感を味わわせる。<br>②児童の活躍の賞賛や価値付けを明確に提示する機会を設ける。   | ①学校自己評価に係るアンケートで「より良い世の中を作っていきたい」と回答する児童が90%台を維持できたか。<br>②朝会、掲示等様々な機会により活躍を紹介できたか。               | ① 代表委員会の企画によるあいさつ運動が実施され、挨拶できる児童の増加に繋がった。児童の肯定的回答 <b>91%</b> が得られた。<br>② お話朝会、音楽朝会、校長室前掲示、美術通り掲示等、活躍を紹介できた。                       | A   | <課題>児童の自己肯定感向上を目指す。自信をもてる機会の構築をする。<br><改善策>児童が自己決定できる場を意図的に設定し、それを価値付ける。             | 「児童の良さを認める」を重要課題としてここ数年取り組んでいる。ほめほめシート等を通して、自己肯定感をもつ児童が増えていると感じている。さらに子どもたちが心と生活において健全にのびのびと成長できるようにするためには、学校だけではなく、家庭と地域と学校のつながりが大切である。子どもたちの表情がより輝くためにももっともっと繋がりを強め、お互いが補いながら協働して進んでいきたい。 |
|             |   | ・教育相談体制や生徒指導体制等、組織力強化           | ①チーム学校として、全教職員が児童の情報を共有し、児童の成長を複数の目で観察し、多面的に支援・評価する。<br>②Solaの一歩を始め、個の特徴に応じた対応ができる手立てや場所等、一人ひとりを大事にできる方策を構築する。 | ①面談、研修、ミーティング、ケースカンファレンス等、児童把握や児童理解、相談等に係る体制が作れたか。<br>②チーム学校として、教職員の知恵と人材を活用し、方策を構築できたか。         | ① 児童理解研修 <b>2回</b> 、ミーティング <b>15回</b> に加え、ケースカンファレンス、保護者面談等の開催等、相談体制の向上が叶い、個に応じた相談が進んだ。<br>② SC、SSWに加え、外部機関とも連携しチーム学校の組織力UPができた。  | B   | <課題>不登校の悩みを抱える児童への支援が更に必要である。<br><改善策>粘り強く児童や保護者の思いと向き合う機会を作り出し、組織的に専門的に寄り添う手立てを講じる。 |   |
| 3           | <現状><br>○学校運営協議会による熟議により、「豊かな心を育む」というテーマが決定した。<br>○学校HPではブログを開設した。多くの保護者が閲覧し、好評である。また、スクリーンによる配信が始まり、情報周知が円滑になった。<br><課題><br>○家庭・地域とともにある学校の推進を目指し、学校HPを始めとして、教育活動を保護者や地域に適切に公開する。  | ・家庭・地域とともにある北浦和小ネットワークの構築       | ①学校運営協議会に代表児童が参加し、ともにコミュニティ・スクールを発展させるという意識を高める。<br>②「豊かな心を育む」という共通なテーマの実現のため、学校・家庭・地域が創り手である意識を高める。           | ①学校自己評価に係るアンケートで「学校運営協議会の活動が分かる」と回答する保護者が70%以上になったか。<br>②「豊かな心を育む」というテーマの実現のため取組が実施できたか。         | ① 児童が委員と給食試食会やありがとう集会等で交流をした。学校運営協議会の保護者の肯定的評価も <b>99%</b> となった。<br>② 北浦和フェスティバル等では中・高等学校のボランティア交流が広がった。                          | A   | <課題>テーマ「防災教育」を推進する。<br><改善策>1年目の成果を土台にし、2カ年目の具体的な計画を実践する。                            | 学校と地域の結びつきとして北浦和フェスティバルが重要な行事となっている。特に、地域の中学生、高校性が活躍する態勢は素晴らしい。防災意識の啓蒙向上を目指した取り組みに向け具体策を位置づけている。来年度は、創立80周年を迎えるため、記念事業を通して、児童の活躍や地域とコミットした教育活動を発展的に実施する。                                    |
|             |   | ・教育活動の公開やHPの充実による学校発信の推進        | ①学校行事を計画的かつ適切に公開し、公開の良さを検証する。<br>②学校HPのさらなる充実とブログの更新を行う。<br>③創立80周年記念事業の実行委員会を立ち上げ、企画の大枠を決定する。                 | ①学校自己評価に係るアンケートで「教育活動を積極的に公開している」と回答する保護者が80%以上を維持できたか。<br>②学校HPの更新が適切か。<br>③創立80周年事業が見通せたか。     | ① 学校公開の提供等の保護者の肯定的評価が <b>99%</b> となった。<br>② 学校HPのブログ、スクリーンによる手紙配信も保護者からの評判がよい。<br>③ 80周年実行委員会発足、記念事業の立案等、順調に計画が進んでいる。             | A   | <課題>教育活動に対する保護者や地域の理解や協力の意識を更に高める。<br><改善策>学校ビジョンを繰り返して知らせる。                         |   |
| 4           | <現状><br>○児童数の増加により、教室数や空間的なゆとりを確保することが難しい。教室の床や昇降口等施設設備の老朽化も進んでいる。<br><課題><br>○リフレッシュ工事に伴う教育環境の変化に対応するため、教育活動の柔軟な対応が迫られる。   | ・児童の心に潤いを与える教育環境の整備             | ①教育環境のユニバーサルデザインの構築を進め、緑化、掲示、整理整頓、整備等、安心できる環境をつくる。   | ①ふれあい花植え、人権の花活動を始め温かい教育環境づくりが充実できたか。   | ① ふえあい花植えを2回実施できた。委員会、地域、PTAの絆強化にも繋がりが、豊かな心が育つ活動ができた。   | A   | <課題>校舎内外の美化に努める。<br><改善策>年間美化計画を立案・実施する。   | 安心、安全な管理について地域住民の協力も得ていて、更なる充実を図る。教室数不足、施設の老朽化の課題はあるが、花いっぱい活動等、児童の心の潤いを育む学校となっている。  |
|             |   | ・安全・安心な学校の実現に向けた土台の強化           | ①安全に学校生活を送ることが出来るように施設設備の安全点検を徹底する。<br>②持続可能な取組の実現のため、PDCAサイクルに則り、評価改善を行う。                                     | ①危機管理体制ができたか。<br>②迅速な対応ができる組織力があるか。<br>③日々の安全点検はできたか。<br>④緊急度が高い案件の解決ができたか。                      | ①~④ 定期点検、校内巡回、現場急行対応、未然予防の徹底等、組織的体制を強化した結果、保護者及び教職員の満足度の肯定的評価は <b>95%</b> となった。   | A   | <課題>危機管理に係る手引きの活用や教職員等への周知徹底の強化をする。<br><改善策>ミーティングやツール等を活用し、温度差ない対応力を付ける。            |   |
| 5           | <現状><br>○ベテラン、中堅、若手の組織構成である。前向きで協力的な教職員チームである。学校課題研修を始め、各々の研鑽も惜しまない。<br>○中・高学年の教科担任制の導入、会議の簡略化、Teamsの活用等、働き方マネジメントが進んでいる。<br><課題><br>○新しい教育界の動きを理解するための学ぶ場を活かし、指導力向上が必要である。<br>○ワークライフバランスを踏まえた工夫をする。   | ・教員の指導力向上に向けての研修の実施             | ①教職員が主体的に研修ができる時間を確保し、資質向上を図る。<br>②教職員の「キャリアNavi」を活用し、自己研鑽のテーマにも取り組む。  | ①教職員の資質向上のため、一人ひとりが主体的に研修ができたか。<br>②ICT活用を含めて自己研鑽を進め、実践に活かされたか。                                  | ① 学校課題と一般の2つ研修体制により充実した。学校課題研修では研究授業 <b>3本実施</b> と <b>6教科</b> の成果達成で授業力向上の方向性が見えた。<br>② ICT研修では外部講師による生成AIの研修ができ、実践に活かされた。        | A   | <課題>2年目の成果と課題を理論付け、3年目の研究発表に向けて全教職員が主体的に実証実践する。<br><改善策>キャリアNaviの下、授業実践をする。          | 教科担任制を高学年だけでなく中学年まで拡大したことは、保護者からよい評価をいただいている。一方で、教職員の連携が欠かせない面があるが、引き続き定着させたい。児童のWell-beingの実現のため、個に応じた指導や支援に工夫を凝らし、誰一人として取り残さないという教職員に強い意志を育成し、温かい教育の推進を図る。                                |
|             |   | ・教職員のアイデアを生かした働き方改革の推進          | ①より効率的な学校運営が進められるように、行事等の見直しや会議の精選を図る。<br>②計画的に業務自体の削減を図り、時間外在校時間の縮減を図る。                                       | ①業務改善マネジメントが実施できたか。<br>②新しい働き方改革のアイデアが提案されたか。  | ① 行事や会議の重点化により教職員の業務改善の満足度は <b>96%</b> となった。<br>② PCの効果的な活用、教科担任制が定着し、時間外在校時間縮減ができた。  | A   | <課題>教員の意見と向き合い、更に業務改善を図る。<br><改善策>質と量のバランスよいカリキュラム・マネジメントを実現する。                      |   |